

作家279人が描きだす、それぞれの戦争、時代。  
9月1日 変容する戦争  
イメージシヨンの戦争

9月5日朝刊(全国)

語り継ぐ、物語の圧倒的な力!  
アジア太平洋戦争  
ヒロシマ・ナガサキ  
大反響 大評判!

7月6日朝刊(全国)

作家279人の多彩な顔ぶれが描きだす、それぞれの戦争、それぞれの時代。  
日清日露の戦争  
すべては「善国」のために

10月5日朝刊(全国)

語り継ぐ、あの日の記憶。心に刻む、物語の力。  
ヒロシマ・ナガサキ  
アジア太平洋戦争  
9月1日 変容する戦争

8月5日朝刊(全国)

逆境を生きるとき、物語が生まれる。  
集英社 創業85周年記念企画  
日清日露の戦いから9月1日まで戦後生まれの編集委員による新視点。  
好評刊行中!  
全巻ご予約受付中!

集英社

6月7日朝刊(全国)



株式会社 集英社  
http://www.shueisha.co.jp

宣伝部 書籍宣伝課 主任  
平 あすかさん



平 あすか(たいら・あすか)

群馬県出身。大学卒業後、2002年入社。宣伝部に配属後、集英社文庫担当として、夏の冊キャンペーン「ナツイチ」や、創刊30周年キャンペーンに携わる。

2008年より、集英社読書PR誌「青春と読書」、文芸書の宣伝を担当。最近手がけたものとして集英社85周年企画「コレクション」戦争×文学(全20巻刊行中)・「マスカレード・ホテル」(東野圭吾)など。

中・短編小説を多く収録しています。日清日露から9・11まで、女性や植民地問題など、扱う時代やテーマも様々で、多角的視点で戦争を捉えた全集です。また、クラフト・エヴィング商会による装丁も特徴の一つです。「戦争×文学」の「X」を「と」と読ませるなど、挑戦的で斬新なデザインだと思います。

― 宣伝する際に、意識されたことは。

この全集の役割は、現代における新しい戦争観・戦争像を認識すること、過去の戦争を次世代に語り継ぐ、という二つだと考えました。しかし、戦争を体験していない私が宣伝担当として、不特定多数の読者にメッセージを発信することは、想像以上に困難でした。実際、私も自分が担

りましたが、この段階ではこれしかないなと思っ  
て出しました。

― 毎日新聞に5段の広告を5回出すにあたって、  
どっぴろとところに注意されたのでしょうか。

今回の震災の被災地、基地問題で揺れる沖縄、そして毎年8月に原爆忌を迎える広島・長崎、同時多発テロから10年を経たアメリカ…。その時々、その土地々々で、誰がどんな思いを抱いているだろうか、と考えました。6月の第1回配本時のコピー「逆境を生きるとき、」から、終戦記念日を間近に控えた8月の掲載では、「語り継ぐ、あの日の記憶。」に、さらに配本を重ねて5冊目が出る10月は、「作家279人の多彩な顔ぶれが描きだす、それぞれの戦争、それぞれの時代」とするなど見せ方を変えていきました。

― 立花隆さん、全集の編集委員、毎日新聞記者ら  
が講演した次世代フォーラムはいかがでしたか。

全集の刊行を記念して、広島、長崎、東京、大阪で7〜9月にかけて開催しました。特に、現地の新聞記者の皆様と出会えたことは財産になりました。長崎会場で登壇した福岡賢正副部長の「聞きたくないもの、見たくないものを受け止め伝えていく」という言葉が、心に刻まれています。

〈聞き手・南恵太／写真・藤井淳二〉

当になるまで戦争は「他人事」でしたし、不勉強で読者からお怒りの電話を頂戴したこともあり  
ます。時には20代や30代のスタッフと「いかに他人事を自分事だと思ってもらおうか」を話し合ったりしながら、1年前から宣伝方法について考えていました。

― そういう段階で、東日本震災が起きました。

考え続け、やっと形になりかけた宣伝表現が、あの日を境に、すべてゼロからのものとなりました。テレビやラジオから流れてくる「現実」は、あまりにリアルで、今、ここで「戦争」を追体験する意味はあるのか、何度も自分に問いました。実際、社内の会議ではこの全集の刊行時期を再考すべきではないかという意見も出ました。

しかし、放射能問題が深刻化していく中で、第1回配本の『ヒロシマ・ナガサキ』を、あらためてまっさらな気持ちで読み直してみたとき、むしろ今、伝えるべき内容がこの全集にある、と確信しました。究極の状況に迫り込まれた人間の葛藤や逞しさ、解決されることのない問題にさらされ続ける苦悩を追体験し、「逆境を生きるとき、物語が生まれる。」というコピーに行き着きました。被災地の実情を知りもしないくせに不謹慎だ、という声も聞こえましたし、自分の中でこれが本当にベストだったかという迷いもあ